

いわき市の教会を問安して

「東日本大震災」被災支援委員会委員長 疋田國磨呂

4月4日(月)、東北教区を問安した時に、高橋和人議長より、福島県のいわき市方面は原発事故の事もあり、仙台の教区事務所からはなかなか支援の手が届きにくく、関東教区・茨城地区の協力を願います、と頼まれていました。震災直後、日立市内の超教派の活動として、日立教会島田進先生たちが、いわき市内にある岩城教会と常磐教会に、物資搬入の救援活動をされていました。4月より、岩城教会に上竹裕子先生が着任されましたが、原発の放射能問題で運送会社がいわき市に入ることができず、引っ越し荷物が日立教会止まりになってしまい、島田先生たちが、何回かに分けて岩城教会まで送り届けたという報告を受けていました。

5月17日に、ずっと気になっていた、いわき市内教会を問安できました。先ず、飯塚副議長、小池書記の三人で磐城教会を問安いたしました。着任間もない上竹先生が私たちが快く迎えて下さり、震災後のいわき市内の教会、幼稚園・保育園の情報を丁寧に説明して下さいました。磐城教会が併設する清風幼稚園の園庭に子どもたちの姿が見えないので、休園なのかと思いましたが、子どもたちを放射能に触れさせないように、庭園は使わず、園内で遊んでいるのだそうです。



常磐教会の武公子先生とはお会いできなかったのですが、園長を務める白水のぞみ保育園では、子どもたちが園外を散歩したのですが、武先生が、散歩先の放射能を測定し、データを一市役所に届けた、と職員の方が話して下さいました。今、いわき市の幼稚園・保育園では放射能が子どもたちに与える影響に対して大変敏感な状況であります。関東教区が韓国から贈られた水を、福島県郡山、三春、いわきの幼稚園協会が必要と申し出がありましたのでお届けしました。その水が、清風幼稚園や白水のぞみ保育園の廊下に保管されており、大変助かっていますと感謝されました。子どもたちには水道水を一切使わせていないそうです。

小高伝道所の天下正人先生が、福島原発事故で20kmの避難すべき地域内で、信徒も園児・職員も避難しなければならず、天下先生は清風幼稚園に身を寄せておられ、お会いしてお話を伺うことができました。



教会を問安した後、いわき市の社会福祉協議会を訪ねて、いわき市内の被災地域のボランティア活動の現状と今後のニーズについて責任者に聞きました。物資はだいたい行き届いているようですが、人力はまだまだ必要としているとのこと。今週から原発に近い場所(30キロ圏内)の退避勧告が解除されたので、更に人力が必要とされているとのこと。また、避難所近くで案内を出して、大船渡方式で衣類等を被災者の皆さんに届けることも可能ではないかとのこと。奥羽地区や東北地区に被災に比べて、原発事故のためいわき市の被災に対する関心が薄いように思いました。関東教区として救援活動ができればと感じて帰りました。

群馬地区内の5教会をお訪ねしました

統括主任 飯塚拓也

5月16日(月)に、地震の被害を受けた桐生東部教会と伊勢崎教会をお訪ねすることができました。そして、合わせて、同じ桐生市の泉町教会と桐生教会、さらに、安中教会をお訪ねしました。

桐生東部教会は今から36年前の1975年に、1階部分を駐車スペースとした鉄筋コンクリート造の会堂を建築されました。そして、今から12年前の1999年にエレベーターの設置に伴って4階建ての鉄骨造の建物を会堂に並行する形で建てられました。今回の地震によって、この二つの建物がぶつかり合うこととなり、もともと建物同士を守るために空けられていた5cmほどの隙間がなくなる状況となりました。内壁の割れやひび割れもありますし、駐車場の地盤沈下も一部に起きています。現在、松下設計に修復の方向を示していただきながら、施工業者も交えて、補修計画が検討されています。

桐生東部教会に続いて、泉町教会をお訪ねして佐藤泉牧師とお会いし、その後桐生教会を訪ねて、この4月に着任したばかりで来る教区総会で准允をお受けになる福崎直秋伝道師と教会長老の皆さまとお会いしました。

教団年鑑を見ると、教会設立年月日として、桐生教会1878年11月9日、桐生東部教会1915年1月9日、泉町教会1916年10月7日とあります。そして、桐生の3つの教会は近い距離にあり、それぞれの教派的背景を大切にしながら歩んでいらっしゃいます。桐生の人々にとって「教会」は、きっと身近な存在なのでしょう。本当に素晴らしいことと教えられました。

その後、伊勢崎教会をお訪ねしました。伊勢崎教会は、教団年鑑で1878年7月1日が教会設立となっています。また、現在の会堂は、1938年に田中忠雄氏によって設計されたものです。地震によって会堂内部の漆喰の壁が落ち、屋根の重さが会堂の柱を外側に押し出したため壁が傾く状態となりました。礼拝は、別館の教育館で守っていらっしゃいます。福士卓司牧師ご夫妻が迎えてくださり、様子をお話しくいただきました。その中で、地域の方々が会堂をとっても愛しておられ、



修復しての補修を願い、そのために献金を寄せてくださったお話しを伺うことができました。これも、本当に素晴らしいことだと思います。伊勢崎教会の補修は、松下設計の協力もあって、建て直すのではなく補強して現在の会堂を使用できるようにする方向で検討されています。

最後に、安中教会でも被害があると知りお訪ねしました。教団年鑑では、1878年3月30日が教会設立とされています。この4月に、新たに江守秀夫牧師をお迎えしたところです。ご存じの方も多いと思いますが、文化財の指定を受けた教会です。会堂内壁の漆喰にひび割れが多数みられますので、補修をしていなくてはならないでしょう。松下設計士にも診ていただきました。

今回の訪問を通して、群馬地区にある教会がそれぞれに歴史を刻んでいらっしゃることを実感させていただきました。今回訪問できなかった教会も、同様に歴史を刻んでいらっしゃいます。そして、歴史ある会堂を、大切に手入れして使っていらっしゃいます。地域にしっかりと根をおろし、人々に愛されているのです。これこそ、素晴らしい証しです。今回の震災の被災への支援は、この「教会の地域への証しを共にする」ことなのだと教えられました。感謝です。